

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3470205323
法人名	社会福祉法人 三篠会
事業所名	グループホーム 鈴が峰
所在地 (電話番号)	広島県広島市佐伯区五日市皆賀104番地27 (電 話) 082-943-8888

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年5月22日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年11月1日	
ユニット数	2 ユニット	18人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤6人, 常勤換算12.2 人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上3 階建 3 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 780 円		

(4)利用者の概要(月日現在)

利用者人数	18 人	男性	1 人	女性	17 人
要介護1	0 人	要介護2	7 人		
要介護3	9 人	要介護4	2 人		
要介護5	0 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 84.3 歳	最低	65 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 一陽会 原田病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム鈴が峰(以下「ホーム」という。)は、広島市郊外の丘陵地に位置し、総合施設の中に2ユニットのホームとして開設されています。
ホームの理念は、職員全員が協働して作りあげ、さらにユニットごとに具体的な目標を掲げ、日々実践されています。法人として研修参加を積極的に勧めるなど、職員の資質の向上に努められており、職員は法人内、外部の認知症に関わる研修等にも参加し、研鑽を積まれています。
また、平成20年から精神科専門医による毎月2回の往診があり、認知症の利用者への対応や薬の処方などの指導、助言がなされており、利用者や職員の安心感が得られています。利用者一人ひとりの希望や思いは、ケース記録や毎月のケア会議によって検討されており、週2回のドライブや近くのスーパーへの買い物などの外出支援にもつながっています。
また、併設しているデイサービスセンターの温泉浴室を利用し、ホームから出て雰囲気の違い温泉入浴の機会を作るなど楽しみづくりが行われています。さらに、毎月2回ホーム独自で取り組んでいる料理会や味噌汁作りでは、利用者と職員が一緒に参加して楽しめるよう工夫されています。地域との交流は立地的に難しい面もありますが、今後は、職員や民生委員等のネットワークを活かした交流をさらに深められることが期待されます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果をもとに、共有スペースの有効活用が図られており、明るい色彩のソファを設置したり、コーナーに畳敷きのスペースを作り、炬燵を置くなどして、利用者がくつろげるよう工夫されています。なお、ソファや畳は、組み合わせが自在にできるようにするなど、行事などの場面に応じて活用する配慮がなされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については、管理者、職員全員がよく理解されており、自己評価についても、前向きな視点からより高い目標を掲げられています。なお、外部評価については、運営推進会議などで開示、検討し、改善に取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年度の運営推進会議は3回開かれており、会議では、行事の計画や報告、ホーム職員の異動等のお知らせなどがあり、行事はビデオで報告されています。ホームのおやつ作りの会と同じ日に会議を開催し、日ごろの様子も見てもらいながらの交流も図られています。今後はメンバーに新しい人を加えて、より斬新な意見を見出していくことも検討されています。 また、運営推進会議には行政職員も参加されており、地域包括支援センターとの連携をとりながら、地域住民へ認知症講座を開くなど、ホームの人材を活かした活動に期待がもたれます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、運営推進会議の中で家族代表の意見を述べたり、行事に参加された家族同士の話し合いをされたり、運営に反映する仕組みができています。また、法人全体で家族を対象にして「顧客満足度調査」を毎年実施し、集計結果はミーティングの中で検討され、具体的な改善に向けて取り組まれています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは住宅地と離れており、交通の便もよくないことから、地域とのかかわりが薄くなりがちですが、地域の小、中学校との定期的な訪問や、町内会行事に参加するなどのつながりがあります。建物内にある地域包括支援センターや、民生委員や地区社協とも連携を図って、今後の積極的な交流が期待されます。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を職員全員で協議してつくられており、3つの頭文字「J」に「慈愛に満ちた」「自由で安心」「笑顔あふれる」充実した毎日の理念を掲げ、その人らしい暮らしの支援をめざされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員でともに作りあげた理念は、具体的な目標をユニット名の頭文字からつくられています。もみじユニットは「もりもり食べて」「み～んな元気」「じゆうな生活」、わかばユニットは「わらいの絶えない」「かていてきな雰囲気」「ばりあふりいな環境」とわかりやすく、理念の実践に日々取り組んでおられます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会には加入していませんが、町内会行事の夏祭りや運動会に参加しており、地域小学校からの訪問、中学校の職場体験受け入れなどの交流があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人全体で家族を対象にして「顧客満足度調査」を毎年実施されています。集計結果は、ミーティングの中で検討し、具体的な改善に向けて取り組まれています。外部評価からの気づきについても、共用スペースの有効利用として明るい色のソファの設置や、組み合わせ自由な畳スペースを設けるなど、改善に取り組み、居心地のよい居場所作りに取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区健康長寿課職員、地域包括支援センター職員、地域の民生委員、家族、利用者と事業所関係職員の参加で開催されています。平成20年度は3回開催されており、議題としては主に行事等の計画や実施状況のビデオ報告、各委員からの意見、検討などとなっています。直近の会議では、おやつ作りの会に参加してもらい、日常の様子もみながら交流を図られています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	建物内に地域包括支援センターがあり、行政と連携して「認知症の人の接し方講座」を実施されています。また、職員の中に認知症介護実践リーダー研修を修めた有資格者もあり、地域への啓発活動に取り組まれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月請求書と一緒に日ごろの様子が伝えられており、季刊として行事の写真など記載された「虹の橋だより」が家族に届けられています。利用者の体調等の変化も随時電話で伝えられています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加しており、家族の意見は運営に活かされています。また、行事の中で家族同士の交流もあり、意見を伝えやすい雰囲気をつくるとともに、家族の思いを大切にされています。ホームの玄関に苦情箱を設置されていますが、それ以上に面会時の職員の積極的な声掛け等で、なんでも直接伝えられる信頼関係を築かれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の規模が大きいので、配置転換による人事異動があります。離職等で職員の交代があった場合は、職場内の研修としてチームワークで伝え合いながらの緩やかな交代となるよう、利用者へ与える影響を最小限にするよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の職員研修計画が充実しており、新人研修から段階に応じて育成する仕組みができています。外部研修の受講についても積極的に支援されており、職員は受講内容についてミーティングで知識の共有を図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とはあまり交流の機会をもたれていませんが、管理者や職員が職場外で同業者と人的ネットワークを作られています。その中で、同業者と相互に見学会を行う企画もたれており、情報提供等の交流が図られています。	○	同業者と交流することで新たな気づきが資質の向上につながりますので、さらなる取り組みが期待されます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、事前に利用者の自宅を訪問し、利用者、家族との面談で生活歴や性格等を理解し希望をくみとり、なじみの関係をつくる工夫をされています。また、併設施設でのデイケア、ショートステイ利用を経た入居についても考慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する側、される側の意識を持たず、人生の先輩として尊敬の念を持たれています。また、職員が編み物が好きな利用者から教わったり、貼り絵の上手な人の作品をホーム内に展示するなど、利用者一人ひとりの特技を活かしながら、お互いを支えあう関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日ごろの思いや希望は、ケース記録に記載された内容をミーティングの場で全員に伝えられ、思いがかなうよう工夫されています。また、家族からも希望を把握され、よりよい暮らし方に配慮されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族、医師、介護職員の参加を得て計画を作成する仕組みができています。また、月2回精神科専門医による往診があり、より利用者の状態に即した介護計画の作成に努められています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、毎月1回カンファレンスが開かれています。その中で日々の細やかな申し送り表やケース記録から状況を把握し、家族の同意を得て見直しを行う体制がとられています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物内のデイサービスセンターに温泉浴室があり、デイサービスのない土曜日に利用されています。浴場まで少し距離があるため、散歩を兼ねて浴室へ向かうなど、気分転換も図られています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの利用者のかかりつけ医は継続して利用できるよう支援されており、通院、薬処方も受けられています。嘱託医との連携も密にもたれ、容態に応じて適切な対応ができる体制を作られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前の面談時から、家族の重度化や終末期についての対応を確認されています。入居後も主治医との情報交換を行うことで、ホームの全職員が具体的な対応方法についての情報を共有されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけについては、職員が作成した「ことばづかいの注意事項」に留意しながら、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行っています。また、記録等の個人情報の保護についても、留意されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分のペースを自然に作れるよう、日々の暮らしに利用者の希望が反映されるよう配慮されています。また、以前から地域のいきいきサロンに参加されていた人には、入居しても通い続けられるよう支援されています。ほかにも、お誕生日にはその人が一番希望することを叶える活動をしており、家族とのお花見などが実施されています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のときに、利用者がご飯をよそう、配膳するなど、自然に利用者一人ひとりができることを手伝われています。また、職員もテーブルの配置を変えることで、明るい雰囲気ですぐに食事ができるよう配慮したり、利用者と一緒に食事を摂ることで、家庭的な雰囲気をつくり、利用者の健康維持に努められています。自由な献立で料理を作る料理会も月2回あり、隔週の土曜日はみんなで味噌汁を作られています。行事のときはビールなども飲まれ、楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入りたいときに入れるよう、一人ひとりのタイミングに合わせており、早朝や夜の入浴も支援されています。併設施設の温泉も毎週土曜日に利用したり、別のユニットの広めの浴室も利用するなど、柔軟な支援をされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や特技がよく把握されており、みんなが「貼り絵」の上手な人に習って作品を仕上げ、居間の壁に飾るなどされています。また、音楽療法の日も週1回あり、ボランティアの協力で、全員で歌ったり、楽器の演奏も加わって楽しい時間を過ごされています。ほかにもレクリエーション担当職員が主体となって、ホワイトボードに大きくプログラムや絵を書かれたり、季節感を味わえるような大きな桜の花を飾るなどの配慮をされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとにお花見行事に行かれています。また、利用者一人ひとりの希望にそって、週2回近くのスーパーや100円ショップへ買い物に出かける支援を行われています。また、家族との話し合いで自宅への一時帰宅も支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、施設内を自由に行き来できますが、夜8時30分から翌朝7時までは、安全のため事業所の出入り口に施錠されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームだけでなく、建物全体で定期的に避難訓練を実施されています。地域との連携は立地的に難しい面もありますが、法人全体で連携し、避難シミュレーションを行うなど防災意識の共有に努められています。またホームとしても、避難路を「ベランダ」とするなど明確にし、具体的な対策をたてられています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取を、常に記録することで状態を把握されています。管理栄養士と連携し、咀嚼、嚥下困難な利用者には刻み食などで対応したり、糖尿病の人も食事量を加減することで、一人ひとりに合わせた支援をされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るい色のソファ、畳敷きのコーナーには炬燵を置かれ、外の景色がよく見えるため、利用者の憩いの場となっています。食堂の壁には利用者みんなで作成した貼り絵や、季節の花を飾るなど、明るい雰囲気がつくられています。天井の蛍光灯には竹のすだれを利用した和風感覚のシェードがかけられ、光がやわらかくなるよう工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者、家族の希望に応じて、馴染みの家具などを持ちこむことができ、利用者が自宅とホームに大きなギャップを感じないよう配慮されています。		

(別紙 2 - 1)

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム鈴が峰 1

評価年月日 平成 21 年 3 月 25 日

記入年月日 平成 21 年 3 月 7 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当者 氏名 安 光 邦 子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員が協議し、事業所独自の理念を掲げている。	○	入居者が地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、事業所独自の理念を作りあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所全体で理念の共有を常に図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	入居者に自由、充実、慈愛に満ち溢れた生活を送っていただけるよう、実践に向けて取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	開設して4年が経過したが、入居者のご家族からの理解は得られているものの、地域からの理解は充分とはいえない。	○	地域密着型のサービス事業所として、入居者に地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、今後も重要課題として取り組んでいきたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めてはいるものの、事業所の立地条件のこともあり、なかなか難しい状況が続いている。	○	地域包括支援センターとの連携も強化し、地域との交流を促進するとともに、周囲からの理解も深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	可能な限り地域の行事に参加しているものの、定期的な年間行事への参加及び近隣小中学校との交流にとどまっている。	○	学区の運動会や生徒との交流、入居前から参加していた地域活動の参加支援を継続的に行うことで、今後も地域に根ざした交流を心掛けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	広島市からの委託事業である家族介護教室において「認知症の方との接し方」というテーマで講義を実施した。	○	認知症についての講義という形だけではなく、介護技術等の役立つ情報についても地域に還元できるよう検討していきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価していただいた内容については、事業所内で確認を行い、より良いケアを行うことができるよう改善を行っている。	○	事業所内の余ったスペースの有効活用や、認知症高齢者に適した生活環境の改善。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	平成20年度は三ヶ月に一回の割合で開催することを目標にしていたが、日程の調整が困難なこともあり、年二回（平成21年3月下旬に一回開催予定）の開催にとどまっている。	○	地域への理解、サービスの向上の為に、平成21年度は三ヶ月毎の開催を実施していきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	主に地域包括支援センターを媒体とし、行政との連携に努めている。	○	今後も更に市町との連携の機会の確保に努め、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方が入居しておられるため、制度の内容についての理解は徐々に深まりつつあるが、制度利用が必要な方への支援にまでは至っていない。	○	成年後見制度への理解を更に深め、制度利用が必要な方へ適切な支援ができるよう事業所としてスキルアップを目指したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での勉強会や外部での研修において学習の機会を設けるとともに、防止に努めている。	○	今後も高齢者虐待防止関連法への理解を深めることができるよう、勉強会等の機会の確保に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ず、相談員及び計画作成担当者が詳細な説明を行っている。	○	入居契約の解約時にも、ご家族と事業所が良好な関係を保つことができるよう、その後のフォローに努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情処理委員会を設置しており、また年に一度顧客満足度調査を実施し、サービスの向上に努めている。	○	今後も継続して実施していく予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、入居者のご様子を記した手紙をご家族へ送付し報告している。また、ご家族を限定に送付している「虹の橋」にて、職員の異動についても報告している。	○	今後も継続して実施していく予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居契約時に重要事項説明書及び口頭にて詳細に説明している。また、苦情・意見箱を設置し、活用している。	○	今後も継続して実施していく予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が多忙であり、主に計画作成担当者とししか接することができていない。	○	今後は管理者と事業所内の全職員との意見交換の場を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者と計画作成担当者が連携し、勤務の調整をしている。	○	今後も継続して実施していく予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新任職員へのOJTを実施するなど、更なる配慮に努めた。	○	異動や退職は完全に防ぐことは困難であるが、今後も更なる配慮に努めたい。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人での新任研修や中堅職員研修、外部研修を積極的に受講するとともに、研修で学んだことが事業所全体に反映できるよう、職員ミーティングでフィードバックを行っている。	○	管理者は積極的に研修の参加を推奨しており、職員のスキルアップを全面的にバックアップしている。今後も継続して実施していく予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者と交流する機会はほとんどなく、相互の訪問等は充分に行うことができていない。	○	同業者との交流を図ることで、他事業所での取り組みや考えを学ぶことで、更なるサービスの向上を見込むことができるため、今後取組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	取り組みが充分とはいえない。	○	職員全体での食事会や個別の面談を行い、職員間の親睦を深めること、職員個人の思いや希望を直接聞き取ることで、ストレスの軽減について取組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は職員の能力及び実績の把握ができています。	○	職員各自が向上心を持ち、充実して働くことができるよう現状を把握し、更なるサービスの向上に努めたい。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居者からの日々の様々な訴え、要望に対し、常に傾聴することを心がけ、個別に対応している。	○	今後も入居者の不安の軽減に努め、安定し充実した毎日を送っていただくことができるよう支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者からの問い合わせに対し、真摯に受け止める努力をするとともに、入居後の面会時における近況報告や電話連絡により、機会の確保に努めている。	○	相談者からの問い合わせについては、電話での対応のみならず、実際に事業所を見学していただく等、信頼関係の構築に努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	幅広くサービス内容を広げ、個々の状態に合った対応を心掛けている。	○	何らかの形でプラスとなるよう、相談援助業務の遂行に励んでいる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員に対し、入居前より入居希望者の状態等を詳細に説明し、普段住み慣れた生活環境に近い雰囲気作りに努め、落ち着いた生活を送っていただけるよう配慮している。	○	ご本人の細かい性格や詳細な生活歴をご家族から随時聞き取り、他の入居者とも馴染みの関係を作ることができるよう、今後も努力を続けたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とともに生活をしながら友好を深め、お互いがお互いをより信頼しあえる関係作りに励んでいる。	○	日常のごく当たり前の場面においても、常に入居者と密着した生活を心掛けている。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常時、ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、ご家族が参加できる行事を行う際には開催案内をし、共に入居者を支えていく関係の構築に励んでいる。	○	入居者に直接関係する話題であっても、遠慮なく話しかけていただけるような雰囲気作りに努めている。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	事業所が間に入ることで、入居者とご家族との関係がより良好なものとなるよう配慮している。	○	入居者とご家族の思いを両面から受け止め、良好な関係の維持に努めている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に利用していた地域活動を入居後も利用できるよう支援するなど、可能な限り個々の要望に応じた対応を心掛けている。	○	住み慣れた地域との繋がりが途絶えることがないように、今後も更なる支援を継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を考慮した対応を行っている。	○	食事の際の席の配置、外出行事の際の入居者の組み合わせ等、入居者同士でトラブルが起こることがないように考慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居契約の終了後も、継続的な関わりが必要な場合は、その都度相談に応じている。	○	退去後も、再度入居の希望があった場合には、当ホームを選んでいただけるよう、関係の継続に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員ミーティングを毎月一回は必ず開催し、全職員で入居者及び家族の意向の確認を行っている。また、問題点が出た場合も全体で協議し、適切と思われるケアを実施している。	○	職員ミーティング以外にも、連絡帳やケアカンファレンスを通じ、思いや意向の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前におけるご本人及びご家族との面接時に、過去の生活歴や現在の生活環境等、詳細な情報の把握に努めている。	○	入居前の面接時には、更に深く情報を把握できるよう、充分時間をかけて確認を行いたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	わずかな体調変化でも見逃すことがないように、日々の観察を充分に行い、コミュニケーションを図っている。	○	日々状態に変化のある入居者の様子を細かく観察し、総合的に把握するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族も含め、医師、看護師、介護職員等の多職種で協力し、介護計画を作成している。	○	ケアカンファレンスにて、全職員が統一したが提供できるようにしている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要時には小規模なミーティングをその都度開催し、入居者の状態に適した対応ができるよう努めている。	○	今後も家族の同意を得たうえでの対応を検討していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人のケース記録、連絡帳、業務日誌を通して、全職員間で情報の共有を図り、入居者の状態に応じたケアの実践に取り組んでいる。	○	日々細かく変動する状態を必ず記録し、記録物については必ず全職員が目を通すようにしている。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設事業所の持つ多様な機能を可能な限り活用し、入居者及びご家族への柔軟な対応を心掛けている。	○	入居者及びご家族と話し合いの場を持ち、グループホームだけではなく、併設事業所の特性を活かした、きめ細やかな支援を実施していきたい。
----	--	--	---	---

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	事業所全体としてはボランティア等の地域資源を活用しているが、個人の思いや意向の必要性に応じた取り組みができているとは言えない。	○	管理者と協議を重ね、より地域資源が活用できるよう努めていきたい。
----	---	---	---	----------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて話し合いの場を持ち、支援を行っている。	○	入居者の状態、必要性に応じ、ご家族も交えて協議を行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態、必要性に応じ、ご家族も交えて協議を行いたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前よりご家族と話し合い、希望があれば継続してかかりつけ医と連携を図っていけるよう支援している。特に希望が無ければ、併設の特養の嘱託医と連携を図ることができるよう、体制を整えている。	○	整形外科医、眼科医、精神科医、歯科医の往診を受けており、事業所内でできる限りの医療ケアが提供できるよう努めている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	外来通院にて認知症に詳しい専門医と連携を図るとともに、平成21年2月より、精神科医の定期往診にて認知症の積極的な治療を支援している。	○	専門医療機関を受診する際には、必ずご家族の意向を確認している。今後も医療機関との関係を保ち、適切な医療を受けることができるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日々看護師に入居者の状態を伝え、健康管理に努めている。	○	今後も継続した連携を図っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、入居者本人の様子を詳細に病院側へ説明し、対応がスムーズになるよう心掛けている。入院中も、随時様子を伺い、状態の把握に努めている。	○	入居者及びご家族に満足していただけるよう、今後も努力していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居前の面接時に意向を確認し、入居以降も主治医と情報の交換を行い、具体的な対応方法について他職種も含め全職員で共有している。	○	主治医、医療機関とも連携し、意向に沿った最善の方法を話し合い、ご家族も含め全職員で情報の共有を図っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所で出来る限りのケアを提供できるよう努め、急な体調変化にも充分対応できるよう、他職種も含め、全職員で取り組んでいる。	○	家族と密接な関係を保ち、医療機関との連携も強め、統一したケアの提供に努めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	生活環境の変化に伴う精神的な混乱が最小限のものとなるよう、ご家族及び医療機関を含め、情報の共有に努めている。	○	入居以前の生活環境や生活歴の詳細の情報を把握し、事業所内でできる限りの対応をすることで、入居後の混乱が少なくなるよう努めている。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自尊心を傷つけることがないように、充分入居者へ配慮を行い、個人情報の保護にも留意している。また、禁句チェックシートを活用し、職員の意識統一を図っている。	○	入居者への言葉遣いには充分注意し、禁句チェックシートを活用することで、受容、傾聴の姿勢を心掛けた対応に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の尊厳を常に考慮し、可能な限り自己決定が行えるよう、コミュニケーションを展開している。	○	研修参加や自己学習により、コミュニケーション技術を職員各自が磨くことで対応を図っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者のペースに合わせ、その日その時の希望に添えるよう支援している。	○	特に入浴の時間については、入居者の希望に合わせ、午前の入浴や夜間の入浴も実施している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の更衣については、入居者に一任している。入居前に通っていた馴染みの美容院に入居後も通いたいという希望がある入居者には支援を行っている。	○	毎月一回の出張理美容サービスをほぼ全員が利用されているが、入居前の面接時に理美容についての希望を聞くことができるよう個人記録に項目を追加した。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が楽しみながら、できる作業をしていただけるよう支援している。食事の際の雰囲気作りにも工夫を凝らし、職員と入居者が同じテーブルで食事ができるよう改善した。	○	前回の指摘後、入居者と職員が同じテーブルで食事ができるよう配慮した。今後も継続して実施していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の状態に合わせた嗜好品を提供するとともに、食事についても低脂肪製品の提供や、糖尿病を意識した食事の提供に努めている。	○	今後も可能な限りご本人の好みに配慮しつつ、主治医とも連携を図り、嗜好の支援を行っていききたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者全員の詳細な排泄パターンを把握するのは困難ではあるが、皮膚の疾患や排泄障害が起こることがないように、常に清潔を保つように心がけている。	○	今後もできる限り、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、オムツを減らすことができるよう努めていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合ではなく、入居者の希望に沿った入浴をしていただけるよう、支援している。	○	午前や夜間の入浴だけでなく、併設施設の大浴槽や温泉、別のユニットでも入浴していただけるよう、柔軟な対応を心掛けていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	事業所内の余ったスペースを有効に活用し、入居者同士が語り合えるような環境整備に努めた。	○	今後も生活環境の改善はもちろん、入居者に充実した生活を送っていただけるよう支援していく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者の詳細な生活歴を把握し, 一人ひとりに適した趣味活動(編物, 書道, カラオケ, 製作活動, 散歩, 調理等)を提供するとともに, 事業所内の簡単な作業もお手伝いいただいている。	○	今後も更に領域を拡大し, 対応していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行うことができる方が少ない現状ではあるが, 管理が行える方には買い物場を提供し, 支援している。	○	月二回の施設内での売店, 週二回の外出時での買い物を今後も継続して行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	入居者個人の希望に沿い, 施設外への外出を支援している。	○	入居者のその日の状態や希望を考慮した散歩, ドライブ等を今後も継続して行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個人の誕生日の際など, 家族とともに外出できる機会をつくり支援している。	○	今後も個別に希望を伺い, 対応していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由なやり取りができるよう, 配慮している。	○	今後も電話の利用, 手紙やハガキを常備することで, いつでも希望時に利用できるよう対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族だけでなく, 馴染みの方との関係が途絶えることがないように, いつでも訪問, 面会していただけるような環境を整備している。	○	面会時, 落ち着いた雰囲気の中で個別に過ごしていただくことができるような場所の確保に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部及び外部研修、職員ミーティングにおいて、身体拘束ゼロについての理解を深め、身体拘束をしないケアの統一ができるよう全員で取り組んでいる。	○	今後も継続して実施していく予定である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の 20 時 30 分から翌朝の 7 時まで、事業所の出入り口のみ施錠している。	○	居室はもちろん、事業所外にも自由な行き来していただけるよう、可能な限り開放的な環境作りに努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在について、職員間で常に意識を持ち、把握に努めている。	○	入居者の中には、密着し過ぎることを拒む方もいらっしゃるので、十分に配慮したうえで個別に対応している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共有スペースにおいては、状況や時間帯に応じて、入居者へ危険が及ぶことがないよう安全管理を徹底している。また、施設内の事故防止検討委員会においても事故の予防に努めている。	○	個々の状態、環境に応じて、入居者への危険の回避に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部及び外部研修において知識を深めるとともに、個別の事故防止対策については、ケアカンファレンス等で積極的に検討している。	○	全職員が事故防止について常に意識を持ち、ケアカンファレンスの重要性を理解したうえで、より充実した内容のカンファレンスができるよう努めていく。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	ほぼ全ての職員がある程度の急変時に対応ができるよう、日々看護師から指導を受けるとともに、内部及び外部研修においても知識を深めるよう努力している。	○	全職員が入居者の既往歴、現病歴を把握し、急変時に適切な対応ができるよう取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々からの協力を得るまでには至っていないが、定期的に避難訓練を実施している。	○	職員は地域の消防署が主催する勉強会に参加し、防災に対する意識の向上に努めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	職員ミーティングやケアカンファレンスにおいて、入居者ごとのリスクマネジメントを考察し、実践している。	○	介護計画作成時に個人のリスクについて検討し、その後の対応に活かしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の日々の体調変化や異変について早期発見を常に心がけ、主治医及び看護師と連携し、対応ができています。	○	内部及び外部研修において知識を深めるとともに、夜間帯における急変時対応についてもマニュアルを作成し、迅速な対応ができるよう体制を整備している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ほぼ全ての職員が薬の内容については充分理解できており、更なる知識の向上を図っている。	○	症状と薬の効果、副作用についての知識を深めていくとともに、今後も誤薬防止に努めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	主治医及び看護師との連携はもちろん、ほぼ全ての職員が便秘の原因や影響についての理解をし、全職員で常に対策を実施している。	○	主治医及び看護師だけではなく、施設の利用栄養士との連携を更に強化していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とはいえませんが、一人ひとりの状態を把握し、口腔ケアに取り組んでいる。	○	今後も歯科医、歯科衛生士との連携を図り、入居者の口腔衛生の保持に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に応じた必要摂取量の把握ができており，施設の管理栄養士との連携し，急な食事形態の変更にも迅速な対応ができています。	○	入居者の嚥下，咀嚼能力を考えた食事形態で食事を提供し，可能な限り嗜好に応じた食事を提供していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症対策委員会を定期的及び必要時に開催するなど，感染症対策には施設全体で取り組み，感染症に対する知識及び意識の向上に全職員で取り組んでいる。	○	感染症の対策に係る知識を更に深め，予防や発生後の対応について体制の強化に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	施設の管理栄養士からの指導のもと，食材の衛生管理には充分留意している。	○	食材に関しては，施設の管理栄養士と連携し，新鮮な食材の提供に努めている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	地域の近隣の方々との交流はできているとはいえない。	○	事業所の立地条件もあり，なかなか難しい状態である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者とともに製作した季節感のある作品の展示や，照明にも配慮する等，居心地の良い共有空間の確保に努めている。	○	今後も穏やかに生活していただけるよう，季節感溢れる共有空間を提供していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはスペースの問題もあり、一人ひとりの居場所の確保は難しく、提供までには至っていない。	○	今後は事業所内の余ったスペースの有効活用も含め、一人ひとりの居場所の確保に努めていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前から慣れ親しんだ物品等を持ち込んでいただき、生活環境の変化による混乱を最小限にとどめるよう配慮している。	○	馴染みの家具や備品を入居後も使っていただくよう、入居前にご本人及びご家族へ依頼し、持ち込んでいただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員の体感気温だけではなく、入居者の状況に応じた温度設定、換気にも充分注意している。	○	換気は定期的に行い、気になるにおいが特にするところには脱臭器を設置し対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の残存機能に配慮し、楽しく生活ができるよう配慮している。	○	安全で、ご本人の残存機能を最大限活かすことができるような生活の提供を心掛けていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者一人ひとりの理解力を把握し、その能力を活かしていただけるよう心掛けている。	○	今後も継続して実施していく予定である。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダの有効スペースには限りがあるが、できる限り自由な出入りができるよう配慮している。	○	散歩や洗濯物の干し場にとどまっているので、今後有効な活用方法を考えていきたい。

(別紙 2 - 1)

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム鈴が峰 2

評価年月日 平成 21 年 3 月 25 日

記入年月日 平成 21 年 3 月 7 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当者 氏名 内 藤 ア ツ 子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員が協議し、事業所独自の理念を掲げている。	○	入居者が地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、事業所独自の理念を作りあげている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事業所全体で理念の共有を常に図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	入居者に自由、充実、慈愛に満ち溢れた生活を送っていただけるよう、実践に向けて取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	開設して4年が経過したが、入居者のご家族からの理解は得られているものの、地域からの理解は充分とはいえない。	○	地域密着型のサービス事業所として、入居者に地域の中で充実した生活を送っていただけるよう、今後も重要課題として取り組んでいきたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	努めてはいるものの、事業所の立地条件のこともあり、なかなか難しい状況が続いている。	○	地域包括支援センターとの連携も強化し、地域との交流を促進するとともに、周囲からの理解も深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	可能な限り地域の行事に参加しているものの、定期的な年間行事への参加及び近隣小中学校との交流にとどまっている。	○	学区の運動会や生徒との交流、入居前から参加していた地域活動の参加支援を継続的に行うことで、今後も地域に根ざした交流を心掛けたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	広島市からの委託事業である家族介護教室において「認知症の方との接し方」というテーマで講義を実施した。	○	認知症についての講義という形だけではなく、介護技術等の役立つ情報についても地域に還元できるよう検討していきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価していただいた内容については、事業所内で確認を行い、より良いケアを行うことができるよう改善を行っている。	○	事業所内の余ったスペースの有効活用や、認知症高齢者に適した生活環境の改善。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	平成20年度は三ヶ月に一回の割合で開催することを目標にしていたが、日程の調整が困難なこともあり、年二回（平成21年3月下旬に一回開催予定）の開催にとどまっている。	○	地域への理解、サービスの向上の為に、平成21年度は三ヶ月毎の開催を実施していきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	主に地域包括支援センターを媒体とし、行政との連携に努めている。	○	今後も更に市町との連携の機会の確保に努め、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方が入居しておられるため、制度の内容についての理解は徐々に深まりつつあるが、制度利用が必要な方への支援にまでは至っていない。	○	成年後見制度への理解を更に深め、制度利用が必要な方へ適切な支援ができるよう事業所としてスキルアップを目指したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での勉強会や外部での研修において学習の機会を設けるとともに、防止に努めている。	○	今後も高齢者虐待防止関連法への理解を深めることができるよう、勉強会等の機会の確保に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ず、相談員及び計画作成担当者が詳細な説明を行っている。	○	入居契約の解約時にも、ご家族と事業所が良好な関係を保つことができるよう、その後のフォローに努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情処理委員会を設置しており、また年に一度顧客満足度調査を実施し、サービスの向上に努めている。	○	今後も継続して実施していく予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、入居者のご様子を記した手紙をご家族へ送付し報告している。また、ご家族を限定に送付している「虹の橋」にて、職員の異動についても報告している。	○	今後も継続して実施していく予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居契約時に重要事項説明書及び口頭にて詳細に説明している。また、苦情・意見箱を設置し、活用している。	○	今後も継続して実施していく予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が多忙であり、主に計画作成担当者とししか接することができていない。	○	今後は管理者と事業所内の全職員との意見交換の場を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者と計画作成担当者が連携し、勤務の調整をしている。	○	今後も継続して実施していく予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新任職員へのOJTを実施するなど、更なる配慮に努めた。	○	異動や退職は完全に防ぐことは困難であるが、今後も更なる配慮に努めたい。
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人での新任研修や中堅職員研修、外部研修を積極的に受講するとともに、研修で学んだことが事業所全体に反映できるよう、職員ミーティングでフィードバックを行っている。	○	管理者は積極的に研修の参加を推奨しており、職員のスキルアップを全面的にバックアップしている。今後も継続して実施していく予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者と交流する機会はほとんどなく、相互の訪問等は充分に行うことができていない。	○	同業者との交流を図ることで、他事業所での取り組みや考えを学ぶことで、更なるサービスの向上を見込むことができるため、今後取組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	取り組みが充分とはいえない。	○	職員全体での食事会や個別の面談を行い、職員間の親睦を深めること、職員個人の思いや希望を直接聞き取ることで、ストレスの軽減について取組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は職員の能力及び実績の把握ができています。	○	職員各自が向上心を持ち、充実して働くことができるよう現状を把握し、更なるサービスの向上に努めたい。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居者からの日々の様々な訴え、要望に対し、常に傾聴することを心がけ、個別に対応している。	○	今後も入居者の不安の軽減に努め、安定し充実した毎日を送っていただくことができるよう支援していく。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談者からの問い合わせに対し、真摯に受け止める努力をするとともに、入居後の面会時における近況報告や電話連絡により、機会の確保に努めている。	○	相談者からの問い合わせについては、電話での対応のみならず、実際に事業所を見学していただく等、信頼関係の構築に努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	幅広くサービス内容を広げ、個々の状態に合った対応を心掛けている。	○	何らかの形でプラスとなるよう、相談援助業務の遂行に励んでいる。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員に対し、入居前より入居希望者の状態等を詳細に説明し、普段住み慣れた生活環境に近い雰囲気作りに努め、落ち着いた生活を送っていただけるよう配慮している。	○	ご本人の細かい性格や詳細な生活歴をご家族から随時聞き取り、他の入居者とも馴染みの関係を作ることができるよう、今後も努力を続けたい。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とともに生活をしながら友好を深め、お互いがお互いをより信頼しあえる関係作りに励んでいる。	○	日常のごく当たり前の場面においても、常に入居者と密着した生活を心掛けている。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常時、ご家族への報告、連絡、相談を徹底し、ご家族が参加できる行事を行う際には開催案内をし、共に入居者を支えていく関係の構築に励んでいる。	○	入居者に直接関係する話題であっても、遠慮なく話しかけていただけるような雰囲気作りに努めている。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	事業所が間に入ることで、入居者とご家族との関係がより良好なものとなるよう配慮している。	○	入居者とご家族の思いを両面から受け止め、良好な関係の維持に努めている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に利用していた地域活動を入居後も利用できるよう支援するなど、可能な限り個々の要望に応じた対応を心掛けている。	○	住み慣れた地域との繋がりが途絶えることがないように、今後も更なる支援を継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を考慮した対応を行っている。	○	食事の際の席の配置、外出行事の際の入居者の組み合わせ等、入居者同士でトラブルが起こることがないように考慮している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居契約の終了後も、継続的な関わりが必要な場合は、その都度相談に応じている。	○	退去後も、再度入居の希望があった場合には、当ホームを選んでいただけるよう、関係の継続に努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員ミーティングを毎月一回は必ず開催し、全職員で入居者及び家族の意向の確認を行っている。また、問題点が出た場合も全体で協議し、適切と思われるケアを実施している。	○	職員ミーティング以外にも、連絡帳やケアカンファレンスを通じ、思いや意向の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前におけるご本人及びご家族との面接時に、過去の生活歴や現在の生活環境等、詳細な情報の把握に努めている。	○	入居前の面接時には、更に深く情報を把握できるよう、充分時間をかけて確認を行いたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	わずかな体調変化でも見逃すことがないように、日々の観察を充分に行い、コミュニケーションを図っている。	○	日々状態に変化のある入居者の様子を細かく観察し、総合的に把握するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族も含め、医師、看護師、介護職員等の多職種で協力し、介護計画を作成している。	○	ケアカンファレンスにて、全職員が統一したが提供できるようにしている。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要時には小規模なミーティングをその都度開催し、入居者の状態に適した対応ができるよう努めている。	○	今後も家族の同意を得たうえでの対応を検討していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人のケース記録、連絡帳、業務日誌を通して、全職員間で情報の共有を図り、入居者の状態に応じたケアの実践に取り組んでいる。	○	日々細かく変動する状態を必ず記録し、記録物については必ず全職員が目を通すようにしている。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設事業所の持つ多様な機能を可能な限り活用し、入居者及びご家族への柔軟な対応を心掛けている。	○	入居者及びご家族と話し合いの場を持ち、グループホームだけではなく、併設事業所の特性を活かした、きめ細やかな支援を実施していきたい。
----	--	--	---	---

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	事業所全体としてはボランティア等の地域資源を活用しているが、個人の思いや意向の必要性に応じた取り組みができているとは言えない。	○	管理者と協議を重ね、より地域資源が活用できるよう努めていきたい。
----	---	---	---	----------------------------------

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて話し合いの場を持ち、支援を行っている。	○	入居者の状態、必要性に応じ、ご家族も交えて協議を行いたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて協議している。	○	入居者の状態、必要性に応じ、ご家族も交えて協議を行いたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前よりご家族と話し合い、希望があれば継続してかかりつけ医と連携を図っていけるよう支援している。特に希望が無ければ、併設の特養の嘱託医と連携を図ることができるよう、体制を整えている。	○	整形外科医、眼科医、精神科医、歯科医の往診を受けており、事業所内でできる限りの医療ケアが提供できるよう努めている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	外来通院にて認知症に詳しい専門医と連携を図るとともに、平成21年2月より、精神科医の定期往診にて認知症の積極的な治療を支援している。	○	専門医療機関を受診する際には、必ずご家族の意向を確認している。今後も医療機関との関係を保ち、適切な医療を受けることができるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日々看護師に入居者の状態を伝え、健康管理に努めている。	○	今後も継続した連携を図っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、入居者本人の様子を詳細に病院側へ説明し、対応がスムーズになるよう心掛けている。入院中も、随時様子を伺い、状態の把握に努めている。	○	入居者及びご家族に満足していただけるよう、今後も努力していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居前の面接時に意向を確認し、入居以降も主治医と情報の交換を行い、具体的な対応方法について他職種も含め全職員で共有している。	○	主治医、医療機関とも連携し、意向に沿った最善の方法を話し合い、ご家族も含め全職員で情報の共有を図っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所で出来る限りのケアを提供できるよう努め、急な体調変化にも充分対応できるよう、他職種も含め、全職員で取り組んでいる。	○	家族と密接な関係を保ち、医療機関との連携も強め、統一したケアの提供に努めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	生活環境の変化に伴う精神的な混乱が最小限のものとなるよう、ご家族及び医療機関を含め、情報の共有に努めている。	○	入居以前の生活環境や生活歴の詳細の情報を把握し、事業所内でできる限りの対応をすることで、入居後の混乱が少なくなるよう努めている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	自尊心を傷つけないよう、充分入居者へ配慮を行い、個人情報の保護にも留意している。また、禁句チェックシートを活用し、職員の意識統一を図っている。	○	入居者への言葉遣いには充分注意し、禁句チェックシートを活用することで、受容、傾聴の姿勢を心掛けた対応に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の尊厳を常に考慮し、可能な限り自己決定が行えるよう、コミュニケーションを展開している。	○	研修参加や自己学習により、コミュニケーション技術を職員各自が磨くことで対応を図っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に入居者のペースに合わせ、その日その時の希望に添えるよう支援している。	○	特に入浴の時間については、入居者の希望に合わせ、午前の入浴や夜間の入浴も実施している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の更衣については、入居者に一任している。入居前に通っていた馴染みの美容院に入居後も通いたいという希望がある入居者には支援を行っている。	○	毎月一回の出張理美容サービスをほぼ全員が利用されているが、入居前の面接時に理美容についての希望を聞くことができるよう個人記録に項目を追加した。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者が楽しみながら、できる作業をしていただけるよう支援している。食事の際の雰囲気作りにも工夫を凝らし、職員と入居者が同じテーブルで食事ができるよう改善した。	○	前回の指摘後、入居者と職員が同じテーブルで食事ができるよう配慮した。今後も継続して実施していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の状態に合わせた嗜好品を提供するとともに、食事についても低脂肪製品の提供や、糖尿病を意識した食事の提供に努めている。	○	今後も可能な限りご本人の好みに配慮しつつ、主治医とも連携を図り、嗜好の支援を行っていききたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者全員の詳細な排泄パターンを把握するのは困難ではあるが、皮膚の疾患や排泄障害が起こることがないように、常に清潔を保つように心がけている。	○	今後もできる限り、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、オムツを減らすことができるよう努めていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の都合ではなく、入居者の希望に沿った入浴をしていただけるよう、支援している。	○	午前や夜間の入浴だけでなく、併設施設の大浴槽や温泉、別のユニットでも入浴していただけるよう、柔軟な対応を心掛けていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	事業所内の余ったスペースを有効に活用し、入居者同士が語り合えるような環境整備に努めた。	○	今後も生活環境の改善はもちろん、入居者に充実した生活を送っていただけるよう支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者の詳細な生活歴を把握し、一人ひとりに適した趣味活動（編物、書道、カラオケ、製作活動、散歩、調理等）を提供するとともに、事業所内の簡単な作業もお手伝いいただいている。	○	今後も更に領域を拡大し、対応していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理を行うことができる方が少ない現状ではあるが、管理が行える方には買い物場を提供し、支援している。	○	月二回の施設内での売店、週二回の外出時での買い物を今後も継続して行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者個人の希望に沿い、施設外への外出を支援している。	○	入居者のその日の状態や希望を考慮した散歩、ドライブ等を今後も継続して行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個人の誕生日の際など、家族とともに外出できる機会をつくり支援している。	○	今後も個別に希望を伺い、対応していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由なやり取りができるよう、配慮している。	○	今後も電話の利用、手紙やハガキを常備することで、いつでも希望時に利用できるよう対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族だけでなく、馴染みの方との関係が途絶えることがないように、いつでも訪問、面会していただけるような環境を整備している。	○	面会時、落ち着いた雰囲気でも個別に過ごしていただくことができるような場所の確保に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部及び外部研修、職員ミーティングにおいて、身体拘束ゼロについての理解を深め、身体拘束をしないケアの統一ができるよう全員で取り組んでいる。	○	今後も継続して実施していく予定である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の 20 時 30 分から翌朝の 7 時まで、事業所の出入り口のみ施錠している。	○	居室はもちろん、事業所外にも自由な行き来していただけるよう、可能な限り開放的な環境作りに努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の所在について、職員間で常に意識を持ち、把握に努めている。	○	入居者の中には、密着し過ぎることを拒む方もいらっしゃるので、十分に配慮したうえで個別に対応している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共有スペースにおいては、状況や時間帯に応じて、入居者へ危険が及ぶことがないよう安全管理を徹底している。また、施設内の事故防止検討委員会においても事故の予防に努めている。	○	個々の状態、環境に応じて、入居者への危険の回避に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部及び外部研修において知識を深めるとともに、個別の事故防止対策については、ケアカンファレンス等で積極的に検討している。	○	全職員が事故防止について常に意識を持ち、ケアカンファレンスの重要性を理解したうえで、より充実した内容のカンファレンスができるよう努めていく。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	ほぼ全ての職員がある程度の急変時に対応ができるよう、日々看護師から指導を受けるとともに、内部及び外部研修においても知識を深めるよう努力している。	○	全職員が入居者の既往歴、現病歴を把握し、急変時に適切な対応ができるよう取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人々からの協力を得るまでには至っていないが、定期的に避難訓練を実施している。	○	職員は地域の消防署が主催する勉強会に参加し、防災に対する意識の向上に努めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	職員ミーティングやケアカンファレンスにおいて、入居者ごとのリスクマネジメントを考察し、実践している。	○	介護計画作成時に個人のリスクについて検討し、その後の対応に活かしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の日々の体調変化や異変について早期発見を常に心がけ、主治医及び看護師と連携し、対応ができています。	○	内部及び外部研修において知識を深めるとともに、夜間帯における急変時対応についてもマニュアルを作成し、迅速な対応ができるよう体制を整備している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ほぼ全ての職員が薬の内容については充分理解できており、更なる知識の向上を図っている。	○	症状と薬の効果、副作用についての知識を深めていくとともに、今後も誤薬防止に努めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	主治医及び看護師との連携はもちろん、ほぼ全ての職員が便秘の原因や影響についての理解をし、全職員で常に対策を実施している。	○	主治医及び看護師だけではなく、施設の利用栄養士との連携を更に強化していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後とはいえませんが、一人ひとりの状態を把握し、口腔ケアに取り組んでいる。	○	今後も歯科医、歯科衛生士との連携を図り、入居者の口腔衛生の保持に努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に応じた必要摂取量の把握ができており，施設の管理栄養士との連携し，急な食事形態の変更にも迅速な対応ができています。	○	入居者の嚥下，咀嚼能力を考えた食事形態で食事を提供し，可能な限り嗜好に応じた食事を提供していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症対策委員会を定期的及び必要時に開催するなど，感染症対策には施設全体で取り組み，感染症に対する知識及び意識の向上に全職員で取り組んでいる。	○	感染症の対策に係る知識を更に深め，予防や発生後の対応について体制の強化に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	施設の管理栄養士からの指導のもと，食材の衛生管理には充分留意している。	○	食材に関しては，施設の管理栄養士と連携し，新鮮な食材の提供に努めている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	地域の近隣の方々との交流はできているとはいえない。	○	事業所の立地条件もあり，なかなか難しい状態である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者とともに製作した季節感のある作品の展示や，照明にも配慮する等，居心地の良い共有空間の確保に努めている。	○	今後も穏やかに生活していただけるよう，季節感溢れる共有空間を提供していきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間においてはスペースの問題もあり、一人ひとりの居場所の確保は難しく、提供までには至っていない。	○	今後は事業所内の余ったスペースの有効活用も含め、一人ひとりの居場所の確保に努めていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前から慣れ親しんだ物品等を持ち込んでいただき、生活環境の変化による混乱を最小限にとどめるよう配慮している。	○	馴染みの家具や備品を入居後も使っていただくよう、入居前にご本人及びご家族へ依頼し、持ち込んでいただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員の体感気温だけではなく、入居者の状況に応じた温度設定、換気にも充分注意している。	○	換気は定期的に行い、気になるにおいが特にするところには脱臭器を設置し対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の残存機能に配慮し、楽しく生活ができるよう配慮している。	○	安全で、ご本人の残存機能を最大限活かすことができるような生活の提供を心掛けていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者一人ひとりの理解力を把握し、その能力を活かしていただけるよう心掛けている。	○	今後も継続して実施していく予定である。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダの有効スペースには限りがあるが、できる限り自由な出入りができるよう配慮している。	○	散歩や洗濯物の干し場にとどまっているので、今後有効な活用方法を考えていきたい。